

プレゼン：3月10日 B会場 16:30～ 拠点間のサプライチェーン、つながる工場

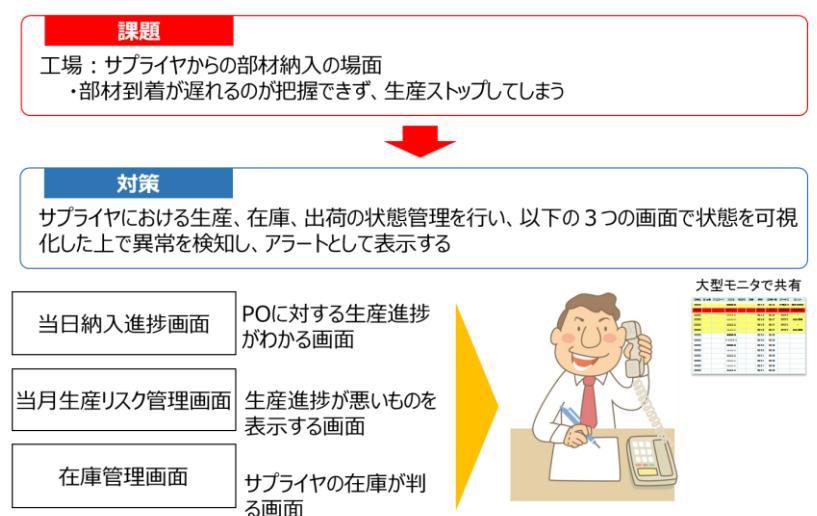
対象業務の現状と取組み

サプライチェーン全体俯瞰のしくみにより、サプライチェーンの効率化に貢献

サプライヤ、販社・お客様の物流、在庫、生産状況が見えないことによる困りごとがあちこちにあります。例えば、サプライヤで異常が発生した場合、営業から連絡がないなどの理由で納期当日になって納入遅延が分かり、短期リードタイムの生産計画変更を強いられることや、最悪はライン停止することがあります。こうした課題を解決するためには、サプライヤの情報(サプライヤの生産、在庫、出荷情報など)をサプライヤと工場双方が「進捗状況・異常アラート」として共有する仕組みを作る必要があります。これによって異常情報キャッチのタイミングが前倒しされ、余裕を持ったリカバリが可能となります。

実証実験・業務シナリオ (TO-BE)・成果

海外サプライヤの生産、在庫、出荷情報を、標準I/F(EDIFACT)を使ってクラウド上にあげ、「進捗状況・異常アラート」として、EDI発行されるPO情報と関連づけたステータス監視ができることで、異常キャッチのタイミングが前倒しされ、余裕を持ったリカバリによって損失をへらすことができるようになります。



ファシリテータ：澤永正行(日本電気)
 エディタ：酒井康作(ブラザー工業)
 鈴木哲夫(日本ユニシス) 平生利明(日立)
 メンバ：田口茂・塩谷尚夫(NTT-D)
 三輪一義(ソニー) 中山健(VCP協)
 岡本拓也・前田貴純(キヤノンIT)

